

環境経営論 2005年度個別感想集

平成17年8月2日 AM
東京外国語大学 担当講師 小野木正人

1. 一番印象的だったこと

- 環境負荷の測り方が、以外に主観的であること。
- 排気ガスのCO₂よりも、プラスチックゴミの焼却による二酸化炭素排出量の方が多いこと。(9) そのことを知らない人が多いので、もっとPRすべきだ。
- ISO取得には、丁寧な作業を繰り返し、時間がかかるということ。(3) 第三者の目から見た審査も大切だと感じた。
- 環境調査の内容とその重要性。(2)
- ISO14001 が明確なモデルを持っていないということ。
- EMS構築プロセスは、ISOに比べると割合自由だと感じた。

2. 得たもの、気づき

- ISOを取得するまでの道のりは、大変地道なものだということ。
- 目に見えていないもので、環境負荷の高いものが多い。
- 環境調査の方法がきちんと決められていないので、客観的に行なっていない企業もあるらしい。個人の意識と制度の両輪が必要だ。
- 電力の使用も、CO₂ を発生させるとのこと。(2)
- 節電するより、ペットボトルを使わない方が効率的に環境に貢献できるということ。
- Plan、Do、Checkの体系的な見方。
- 地球温暖化の原因に、汚水処理も含まれているということ。二酸化炭素を排出するとは知らなかった。

3. その他の感想

- ISOの取得は難しそうで、生協が難色を示したわけがわかった。
- 就職活動をするときも、環境に対する配慮をしているかという視点から就職先を選ぼうと思う。
- 外大祭で出るプラスチックゴミの多さを思い出し、環境に負担をかけているのだと思った。
- ISOの認証取得が約1年でできるということ。もっとかかると思っていた。
- 産業は絶対に環境に悪影響を与えるが、それを抑えることが大切だ。これからも対策を勉強してゆきたい。